

## 【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	紋枯病 トビイロウンカ	並 やや少	並 やや少
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類(防除情報第14号)	並 やや多	並 やや多
いちご	うどんこ病 炭疽病 ( <i>G. cingulata</i> ) ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 少 並 並	並 やや少 並 並
アスパラガス	斑点性病害(褐斑病・斑点病) アザミウマ類	並 やや少	並 並
かんきつ	黒点病 ミカンハダニ	やや少 少	並 少
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 やや少 やや少 やや少 やや少 並 やや多	並 やや少 やや少 やや少 やや少 並 やや多

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## 普通期水稻

## 1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(90筆)の結果、発病株率は3.0%(2.3%)、発生圃場率は30.0%(35.2%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は39.0%(45.6%)であった。

## 2. トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(90筆)の結果、株当たり虫数は0.0頭(0.7頭)、発生圃場率は11.1%(57.4%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(株当たり虫数5.9頭、寄生株率54.7%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 9月中旬に株当たり成虫・老齢幼虫を5頭以上認めたら早急に防除する。
- イ 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りが大きい。このため、防除を行った圃場でもその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。
- ウ 本虫は株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧に行う。
- エ 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境に配慮し、薬剤の飛散に十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は15.1%(11.4%)、株当たり虫数は0.3頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は40.0%(50.0%)であった。
- イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、やや少～並で推移している(図)。

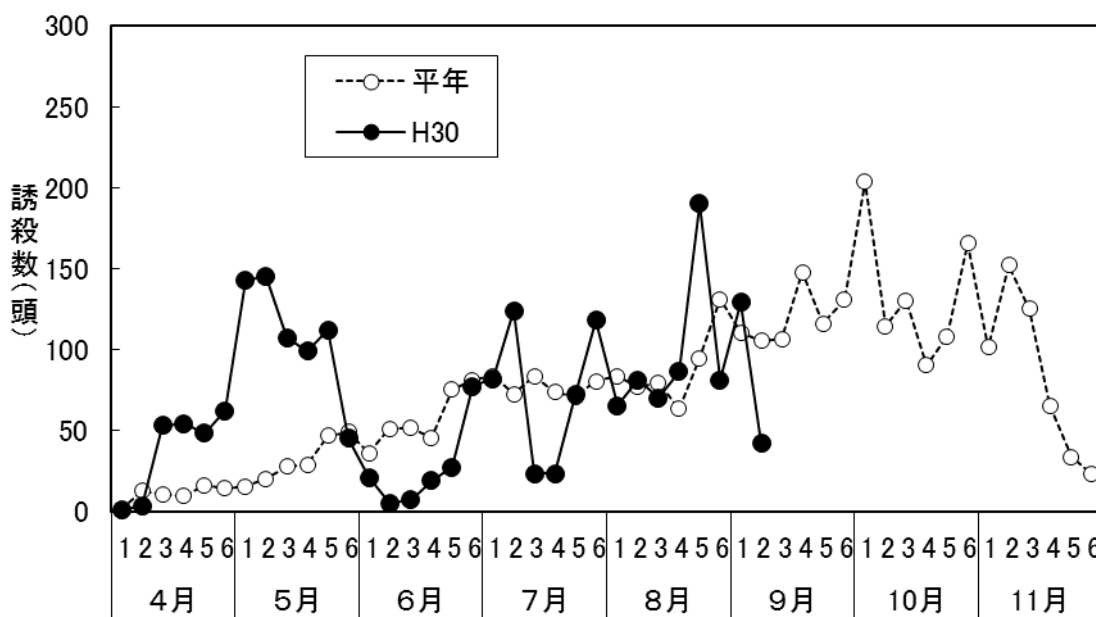


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)  
平年:H20~H29年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

2. 吸実性カメムシ類

平成30年9月13日付け、**病害虫発生防除情報第14号**による。

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(29筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率2.3%)。

### 2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 発生状況

ア 9月前期の巡回調査(29筆)の結果、発病株率は0.0%(0.4%)、発生圃場率は3.5%(17.4%)であった。  
 イ 向こう1か月の気温は平年より高く降水量も並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

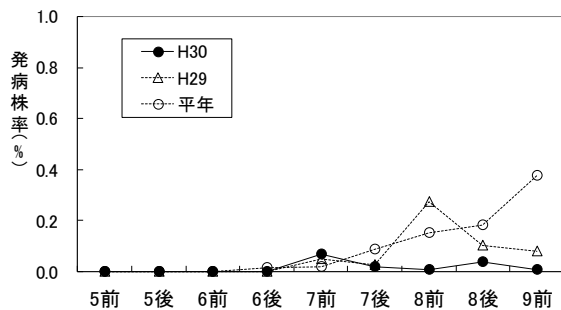


図 炭疽病(*G.cingulata*) 発病株率の推移

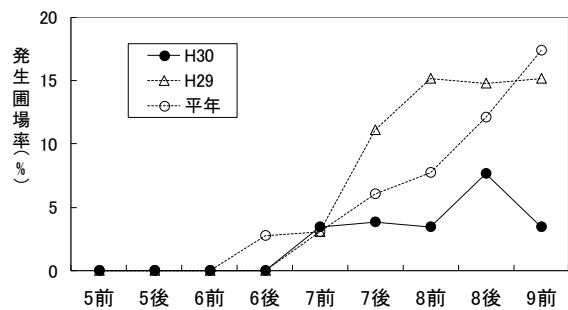


図 炭疽病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

### 3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 発生状況

9月前期の巡回調査(29筆)の結果、発病株率は1.9%(3.9%)、発生圃場率は34.5%(37.9%)であった。

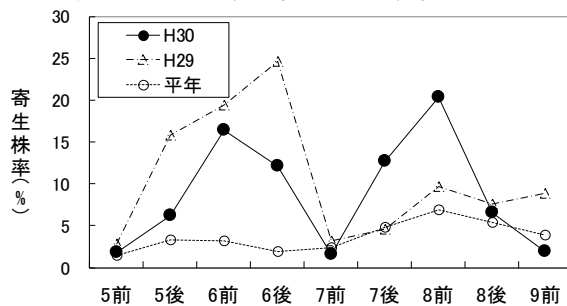


図 ハダニ類 寄生株率の推移

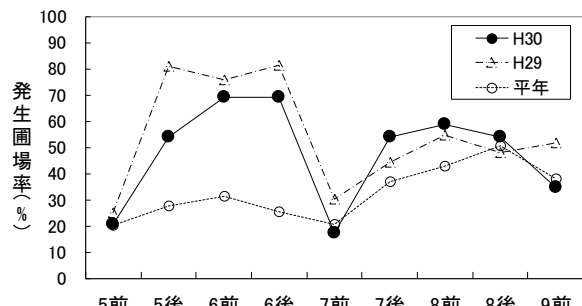


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

### 4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(29筆)の結果、食害株率は2.3%(1.9%)、発生圃場率は34.5%(27.2%)であった。

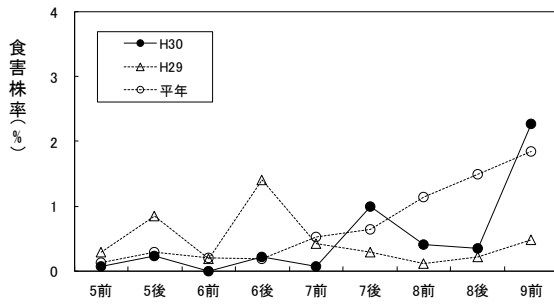


図 ハスモンヨトウ食害株率の推移

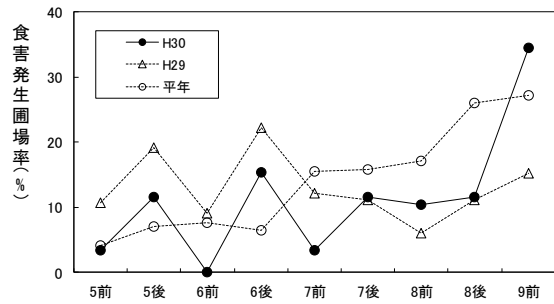


図 ハスモンヨトウ食害発生圃場率の推移

アスパラガス

1. 斑点性病害（褐斑病・斑点病）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は7.4%（8.0%）、発生圃場率は50.0%（55.5%）であった。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所）は1.9頭（4.8頭）、発生圃場率は50.0%（56.0%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

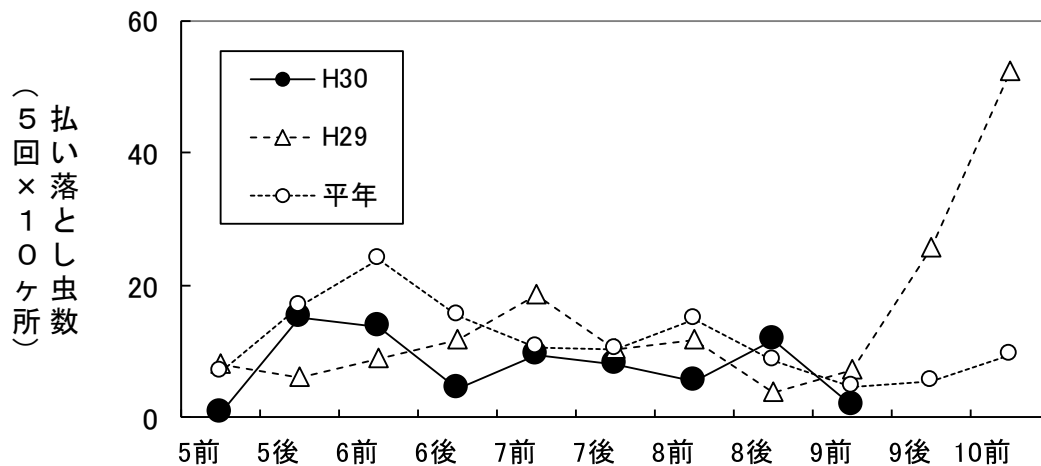


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移

※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内および周辺の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去する。
- イ 薬剤散布は株の内部まで十分付着するよう丁寧に行う。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

## かんきつ

### 1. 黒点病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、発病葉率は3.2%（8.9%）、発生圃場率は19.4%（49.0%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

### 2. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 少

#### (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は0.9%（6.2%）、発生圃場率は25.0%（44.8%）であった。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 予察灯による誘殺数は一時的に佐世保市で増加したが、各地ともに平年並～やや少なくな推移している（図）。

イ フェロモントラップにおける誘殺数は、平年並で推移している（図）。

ウ カメムシ類の新世代発生量の目安となるヒノキきゅう果の着生量は、平年並であった（平成30年8月6日付、防除情報第11号参照）。

エ 8月下旬のビーティング調査の結果、ヒノキの1枝当たりの寄生数は0.8頭（1.7頭）と平年より少なかった（表）。

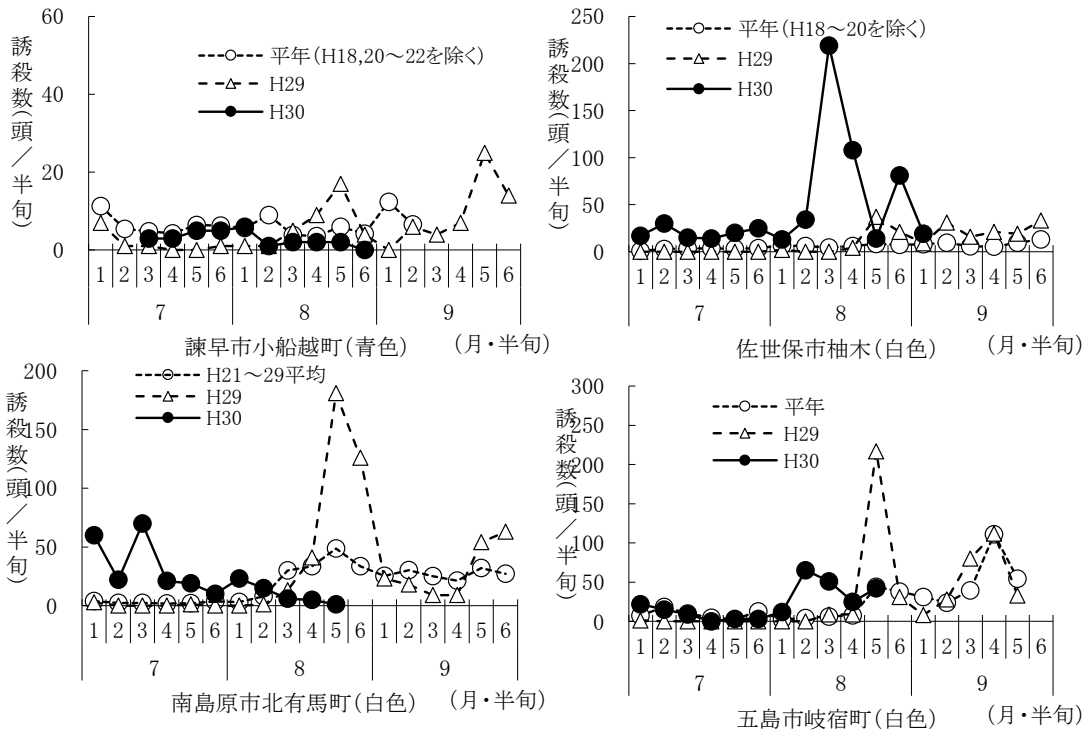


図 果樹カメムシ類誘殺状況(予察灯;白色、青色)

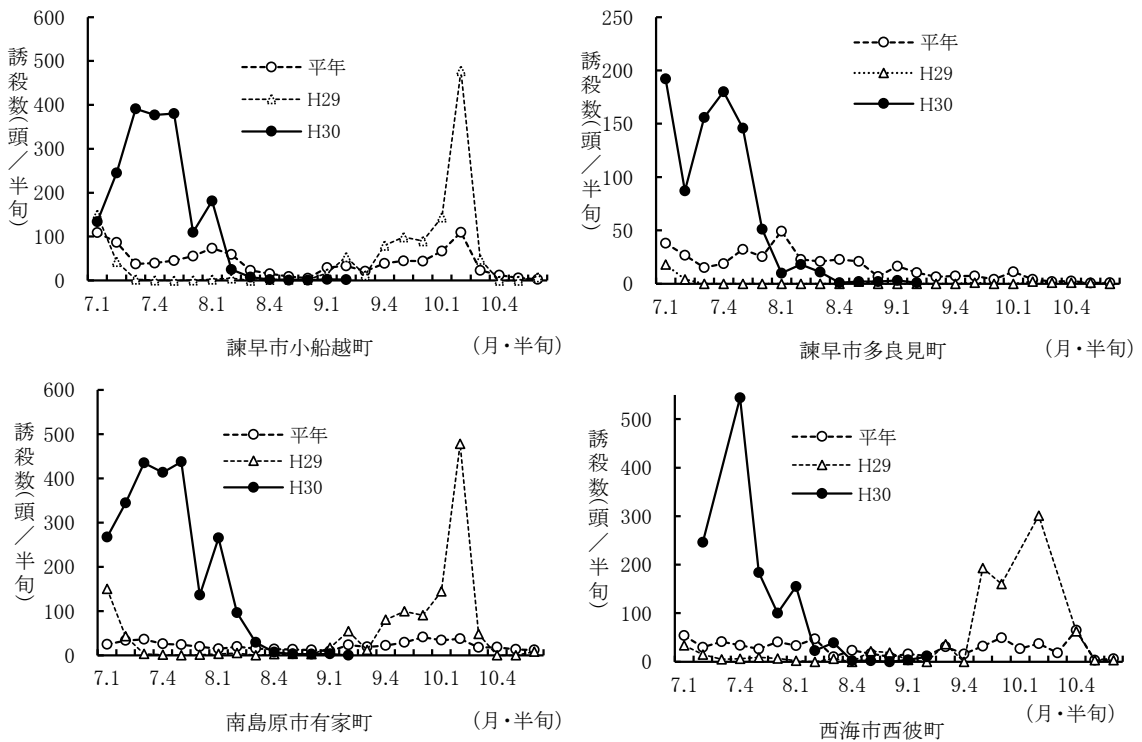


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況  
(フェロモントラップ;黄色コガネコール)

表 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	成虫	老齡	中齡	若齡	計	
平成30年	0.5	0.0	0.0	0.1	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.8
平年	0.9	0.2	0.2	0.1	1.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3	1.7

\* 平成30年8月21、22日にヒノキきゅう果結実枝のビーティング調査を実施

# 茶

## 1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は2.2枚（5.5枚）、発生圃場率は73.7%（60.0%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

## 2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.5%（1.3%）、発生圃場は10.5%（17.5%）であった。

## 3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は8.2頭（19.0頭）、発生圃場率は78.9%（90.6%）であった。

## 4. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.3枚、発生圃場率13.8%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年と比べやや少なく推移している（図）。

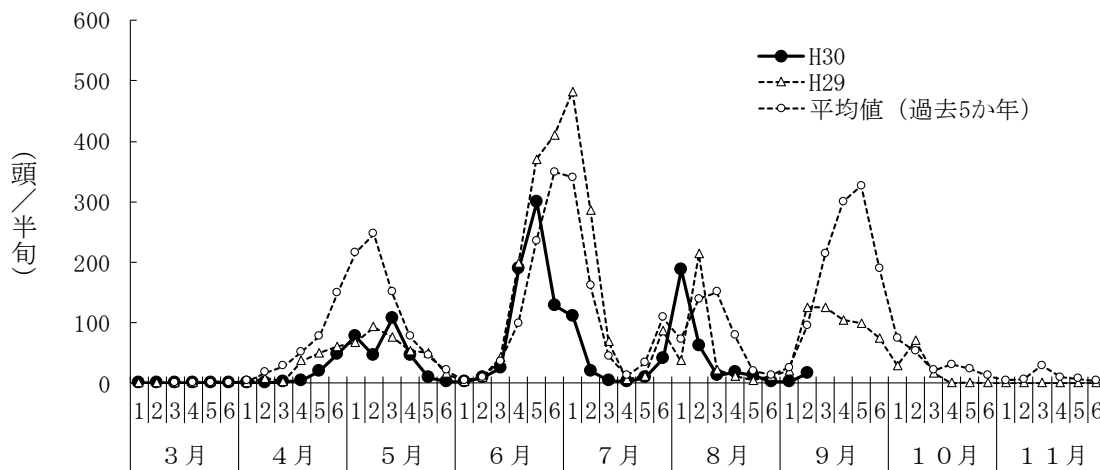


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

## 5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(19筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.9枚、発生圃場率25.8%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、平年と比べ少なく推移している(図)。

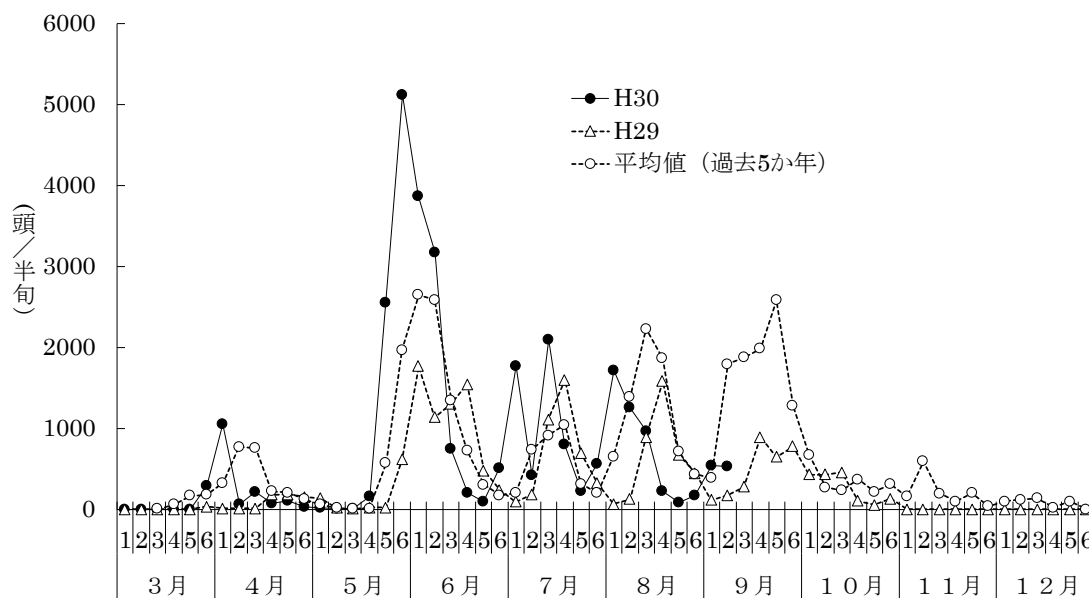


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(19筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は2.3頭(1.9頭)、発生圃場率は57.9%(56.9%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(19筆)の結果、寄生株率は9.3%(3.4%)、発生圃場率は68.4%(22.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。



【参考】

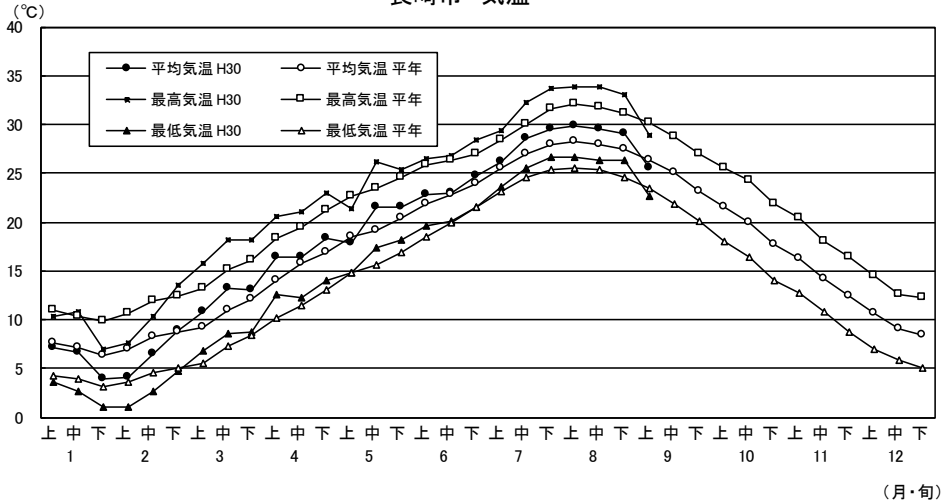
(平成30年9月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	20	40	40
日照時間	50	30	20

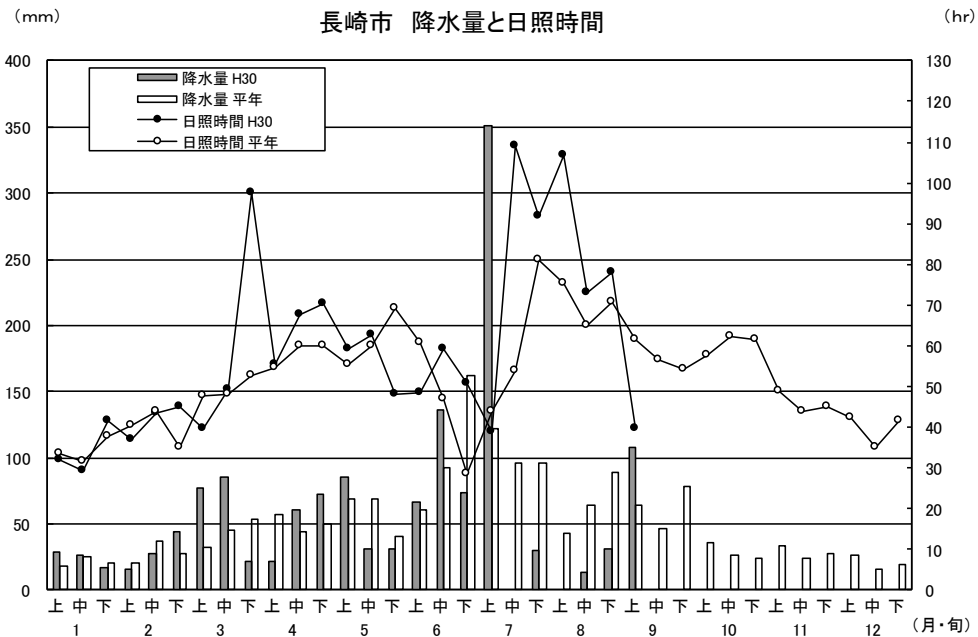
※予報対象地域：九州北部地域

平成30年の気象経過 (長崎地方気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>  
○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。  
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

